



TITLE:

貿易統制としての爲替清算制

AUTHOR(S):

谷口, 吉彦

CITATION:

谷口, 吉彦. 貿易統制としての爲替清算制. 經濟論叢 1935, 40(2): 411-436

ISSUE DATE:

1935-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130556>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第二號

昭和十年二月一日發行

論叢

- 第三史觀の概念……………文學博士 米田庄太郎
地方間課税に於ける住所對財源……………法學博士 神戸正雄
地方財政調整指數……………經濟學博士 汐見三郎

時論

- 増税は景氣の芽を摘むか……………文學博士 高田保馬
貿易統制としての爲替清算制……………經濟學博士 谷口吉彦

研究

- フランスの獨立償還金庫に就いて……………經濟學士 松岡孝兒
貨幣自體の限界效用……………法學士 正井敬次

說苑

- 公債制度の社會的條件に就て……………經濟學士 島 恭彦
小農經濟理論より見たる地代……………經濟學士 山岡亮一

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

貿易統制としての爲替清算制

谷 口 吉 彦

目次

- 一、爲替清算制の特質
- 二、爲替清算制の機構
- 三、爲替清算制の成立事情
- 四、爲替清算制の決済機能
- 五、爲替清算制の貿易機能
- 六、爲替清算制の發展性

一、爲替清算制の特質

爲替清算制 (Exchange Clearing System; Clearingsabkommen) はアインチャツヒ氏も言ふ如く、『今日まで二ケ年半以上も行はれてゐるけれども、その眞の意味を把握することは、多くの専門家も失敗してゐる。何が眞に爲替清算であるかといふ質問に對して、適當な解答を與へることさへ困難である』¹⁾これは一つは、この制度が全く新たな經驗であつて、創始以來まだ數年を経たに過ぎないためと、且つその創設が、人類の合理的な思索または研究の結果といふよりは、寧ろ實際の必要に迫られて、それが何を意味するか意識なくして始められたからであり、また創始以來急速にヨーロッパ諸國の間に成立するに至つた數十百の爲替清算協定は、それ／＼にその内容を異にするもの多く、且つそれを成立せしむるに至つた各國の事情も、それ／＼に多少は相違するからである。それ故に何れの爲替清算制をも包含しうるが如き定義または概念の規定は、今日

1) Einzig, P., Exchange Control, 1934, p. 138.

ではまだ困難である。こゝではたゞこの制度に本質的なものと思はれる點を抽出して、先づその特質と機構を考へて見たい。

爲替清算制は爲替の方法によらずして、公的機關による振替の方法によつて、國際收支を清算する方法であると定義することが出来る。ライシュ教授が、『その根本思想は、貨幣證券の使用を全く無くして、單なる帳簿振替 (Buchungsbildungen) によつて之に代らしむることにより、國際間の交通を容易にし、且つ單純にすることを目的とする』²⁾と言つてゐるのもほゞ同じ意味である。吾國では宮川貞一郎氏・美濃部亮吉氏もほゞ同じ様に見られる。³⁾名和統一氏は稍々異なる見方をされてゐる。⁴⁾

いま右の定義に従つて、爲替清算制の特質を擧ぐれば、

第一に、この制度は爲替の方法によらずして、國際收支を清算する方法である。國際間に收入・支出を實行して、國際貸借を決済しうる方法は、從來は主として爲替賣買の方法により、その補充方法として金の現送を行つたものであるが、この新制度はかゝる從來の方法によらずして、而かもそれと同様の効果を齎らしうるものである。而して金の現送の殆んど行はれない今日では、對外決済の大部分は、爲替の方法によらねばならぬことゝなつたが、これがまた最近の極端な爲替管理によつて、殆んど不可能に近いまでに行詰つて來た。そこで之に代るべき對外支拂の方法として案出されたのが、即ちこの方法である。^(註)

2) Reisch, R., Devisenbewirtschaftung und zwischenstaatliche Clearingverträge. (Der internationale Kapitalismus und die Krise, 1932. S. 346).

3) 宮川貞一郎氏, 新貿易方策と爲替, 9. 45.

美濃部亮吉氏, ドイツの『爲替清算協定』(『經濟往來』第九卷第十一號)

4) 名和統一氏, 國際金融恐慌と爲替清算協定(『自由通商』第七卷第六號)

(註) 爲替の賣買は消滅するが、爲替相場は通貨の交換比例として、之を全く無くすることは出来ない。何となれば、輸入商人は自國通貨を拂込むものではあるが、その金額の決定は、爲替相場によらねば算定は出来ないからである。而して協定の爲替相場を定むる方法には三種ある。當日の公定相場によるか、法定平價によるか協定相場によるかこれである。時には瑞士協定におけるが如く、優位國の通貨をもつて兩國の勘定を立てることもあり、この場合には爲替相場の必要はない。また第三國への爲替相場を基準として裁定することもある。

第二に、この制度は振替の方法によつて國際收支を清算する。即ち輸入商人はその國の中央銀行に拂込み、輸出商人はその國の中央銀行より拂出されて、各々その商品代金を決済し、中央銀行は特別勘定の帳簿上に於て輸入と輸出とを相殺する。換言せば一方の中央銀行は、相手國に對する貿易上の債權と債務とを相殺すると共に、相手國の中央銀行も亦、この國に對する貿易上の債權と債務とを相殺する。この場合に輸入商人の債務は振替へられて、相手方の輸出商人の代りに自國の輸出商人の債權と相殺せられ、相手方の輸出商人の債權は振替へられて、相手國の輸入商人の債務と相殺されることとなる。爲替手形その他の證券を用ひない點では、從來の電信爲替に類似するが、たゞ後者は爲替の自由市場において賣買されるの點が異なる。またこの種の帳簿上の振替による送金方法も、國內爲替においては、從來すでに『當座振込』の名において、盛んに行はるゝ所である。けれども爲替清算制は勿論これらの電信爲替または國內爲替から、直接に生れ出たものではない。

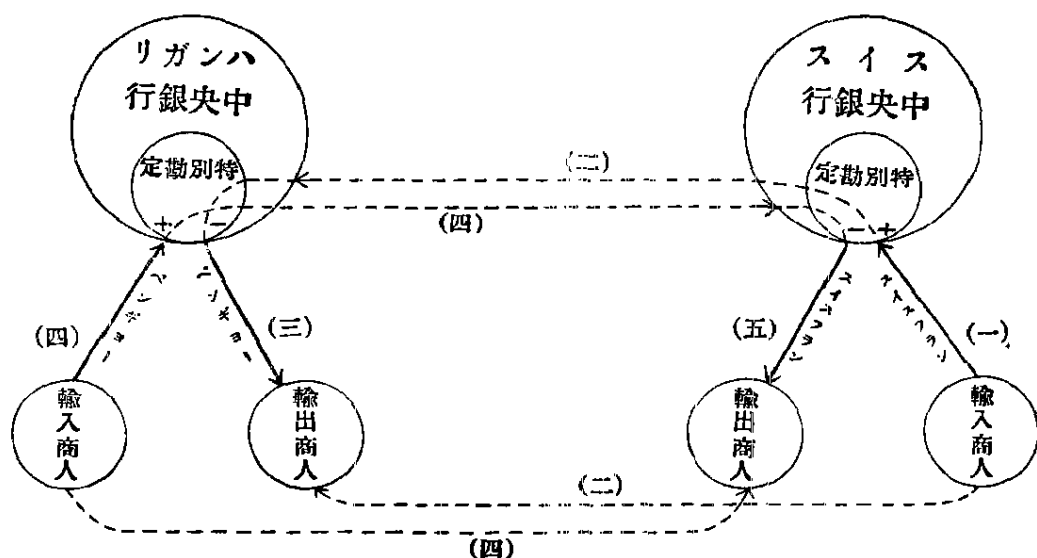
第三に、この制度は公的機關による國際收支の清算方法である。こゝに公的機關とは、多くは

その國の中央銀行であり、稀にはフランスの如く商業會議所内に特設せられた機關であることもある。何れにせよ營利企業としての爲替銀行または從來の爲替自由市場を構成してゐた諸機關は、この制度には全く關與しない。従つてそれは前述の如く電信爲替に類似するけれども、兩者はこの點において全く區別される。

二 爲替清算制の機構

然らば爲替清算制は、如何なる機構においてその機能を發揮するか、いま最初に成立した一九三一年十一月のハンガリー・スイス間の爲替清算協定に基いて説明すれば

- (一) スイスの輸入商人は、その商品代金を自國貨幣スイスフランをもつて、スイス中央銀行内に設けられた『特別勘定』に拂込む。
- (二) 右の拂込ありたる時は、中央銀行は之をハンガリー中央銀行に通知し、別に輸入商人もハンガリー輸出商人に通知する。
- (三) ハンガリーの輸出商人は、右の通知によりその商品代金を、自國貨幣ペングヨーをもつてハンガリー中央銀行内の『特別勘定』から拂出される。
- (四) ハンガリーの輸入商人は、自國貨幣をハンガリー中央銀行内の『特別勘定』に拂込み、その通知はそれ／＼にスイスの中央銀行および輸出商人に達する。



(五)

スイスの輸出商人は、之によつてその商品代金を自國貨幣スイスフランをもつて、スイス中央銀行内の『特別勘定』から拂出される。

右によりて明らかなる如く、この制度の協定によつて例へばスイスにおいては、輸入商人は自國貨幣を自國の中央銀行(特別勘定)に拂込み、輸出商人はその同じ所より自國貨幣を拂出される。即ち輸入商品の支拂と、輸出品の収入とは、その國の中央銀行(特別勘定)において清算され、また同じことが相手國の中央銀行(特別勘定)において同じ様に行はれる仕組になつてゐる。それ故に今かりにスイスとハンガリーとの貿易が均衡状態にあるならば、スイスにおける輸入價額と輸出價額とは一致する筈であり、従つてスイス中央銀行の特別勘定では、恰かも收支相均衡して、何らの決済尻をも残さないであらう。然るに兩國の貿易が不均衡なる場合には、それだけの決済尻は、特別勘定の貸または借となつて残らねばならぬ。

例へばスイスの輸入額が輸出額に比して大ならば、この入超額だけは、スイス中央銀行の特別勘定に残り、それだけハンガリーに對する借となる。反對にハンガリーにおいては、その出超額だけは、特別勘定における不足となり、それだけスイスに對する貸となる。而して現實の貿易状態は、常に右の如くスイスの入超とハンガリーの出超を示すのが常態であるから、⁶⁾ハンガリーはこの出超によつてスイス中央銀行内の特別勘定に残つて來る決濟尻を、他の支拂に利用することが出来るわけである。

かくして兩國の貿易が均衡する場合は勿論、不均衡なる場合でも之を決済することが出来る。而かも兩國の間には、何らの形における資金の移動もなく、また爲替手形・電信爲替の賣買も行はれてゐない。たゞ中央銀行の特別勘定における帳簿上において、輸入と輸出とが相殺されたに過ぎない。この點にこの制度の特質を認めらるゝこと前述の如くである。この制度の機構は、かくの如く簡單なるものではあるが、併しこの機構が何を意味し、如何なる目的に用ひられ、如何なる効果を有するかについては、種々の見解が對立してゐる。⁷⁾

第一は爲替制限説である。この見解に従へば、爲替清算制は從來の爲替管理を更に一步すすめて、一層徹底せる爲替制限を行ふ制度であるといふ。なるほど技術的には、總ての輸入商人をして強制的にその代金を自國の中央銀行に拂込まして、直接の相手方に對する支拂を全く禁止するのであるから、それは極端なる爲替制限によつて、強制的に爲替そのものを消滅せしむる制度

6) Einzig, *ibid.*, p. 136.

7) Einzig, *ibid.*, p. 138-139.

であるかに見える。けれどもスイス・フランス・イギリスの如きが、この協定の成立によつて爲替管理を徹底せしめたとは思はれない。

第二は反對に爲替緩和説である。この制度によつて爲替は制限されるどころか、却つて大いに緩和されるといふ。なるほどこの協定の成立するに至つた一つの事情は、ハンガリー、オーストリア、ドイツ等の極端な爲替管理より来る不便を緩和する爲であつた。この點では爲替緩和の意味も含まれる様ではあるが、併し從來の爲替管理國は、之によつてその管理規定を少しも緩和せざるのみか、從來の管理をそのまゝに繼續しつゝあり、時にはますます之を強化することさへある。⁸⁾

第三は貿易制限説である。この制度はその實質においては、一種の交換貿易制 (Barter system) であり、⁹⁾ その故に自由貿易とは反對に、甚だしく貿易を制限するものであるといふ。けれども爲替清算制は後にも詳論する如く、必ずしも貿易均衡をのみ企圖するものではない。また假りに交換貿易的な性質をもつてゐたとしても、それは必ずしも貿易制限を意味するものではない。¹⁰⁾

第四は貿易促進説である。清算協定の成立するに至つた有力な現實の根據は、爲替管理より来る貿易の沮害を緩和せんとするにあつた。それ故にこの制度が理論的・實踐的に、關係二國の貿易を促進することは疑ひ得ない。この點を強調する論者の中には、この制度をもつて自由貿易への曙光となし、之をもつて『經濟的國民主義と抗爭するための最善の手段である』¹¹⁾と、禮讃するもの

8) World Trade, March, 1934, p. 5.

9) 名和統一氏、前掲論文

10) 拙稿、貿易統制の制限性と促進性(本誌前月號)

11) Einzig, *ibid.*, p. 139.

もある。併しながらそこに論證され實證されてゐるのは、主として關係二國間の貿易の促進であつて、そこで促進されただけ他の諸國との貿易を減退せしむるならば、全體としての貿易をそれほどに促進しうるかは問題である。少くとも之をもつて國民主義から國際主義への轉換と見るが如きは尙早であらう。

かくの如く種々なる見解の對立しうる所以は、最初に述べたる如くこの制度の眞の意味が、種の事情のためにまだ十分に簡明されてゐないことを意味する。そこでわれ／＼はたゞ理論的・抽象的に之を検討するに止まらず、進んでこの制度の成立するに至つた現實の事情を検討することによつて、その眞の意味を把握せねばならぬ。

三、爲替清算制の成立事情

爲替清算制の最初の成立は、一九三一年七月のドイツ金融恐慌に淵源する。クレディット・アンシユタルトの破綻を導火線としたこの金融恐慌は、オーストリア、ドイツからハンガリーに波及して、同國もまた資金の流出・金準備の減少となり、金融制度・通貨制度の脅威を感じることゝなつた。然るにハンガリーは獨逸二國に倣つて、金本位制度を停止することなく、之を形式的に維持しつゝ極端なる統制政策によつて、その通貨制度を擁護せんとしたから、必然に獨逸と同じく嚴格なる爲替制限の政策を採らねばならぬことゝなつた。¹²⁾¹³⁾

¹²⁾ Reisch, a. a. O. S. 345. Einzig, ibid., p. 145-147.

¹³⁾ 十龜盛次氏、爲替交換制度と英獨新協定 (『エコノミスト』昭和九年十月二十一日號)

かくして爲替管理を強化するの結果は、これまた獨逸と同じく、遂にかの『封鎖貨幣』(Blocked money, Spermark) にまで到達した。即ちハンガリーの輸入商人は、その輸入商品の代金を外國に支拂ふことを禁ぜられ、對外支拂の代りに、それを自國貨幣をもつて自國の中央銀行に拂込むことにより、その債務を個人的に辨濟しうることゝした。この輸入商人により拂込まれたる資金が即ち封鎖貨幣であつて、之を直ちに外國に移送せず、そのまゝ中央銀行に保有することゝなつたから、ハンガリーに商品を輸出せる諸外國ことにスイスの如きは、この封鎖貨幣のために、輸出商品の代金を取寄せることが出來ず、之を徒らにハンガリーに凍結せしむることゝなり、その結果としてスイスからの輸出は殆んど困難となつて來た。そこでスイス側にとつては、何らかの方法によつてこの凍結したる輸出資金を回収すると共に、たゞさへ入超傾向の強いハンガリーへの輸出は、かゝる梗塞状態を打開して之を維持または増進せんとする要求が極めて強い。他方にハンガリー側にとつては、何らかの方法によつて對外支拂または爲替の賣却を免れて、資金の流出をさへ喰止めうるならば、出超傾向にあるスイスからの輸入は、之を繼續せんとする希望が強い。この双方の要求が合致した結果、最初の爲替清算協定が兩國の間に締結さるゝことゝなつたものである。¹⁴⁾ 即ちハンガリー側がこれまで一方的に行つてゐた對外支拂の封鎖を、今後はスイス側も同様に行ふと同時に、¹⁵⁾ この封鎖したる對外支拂を、對外受取をもつて相殺することを双務的に協定したのである。之によつてスイス側は、ハンガリーからの輸入資金をもつて、ハンガリー

14) Einzig, p. 136.

15) World Trade, March, 1934, p. 3.

Einzig, *ibid.*, p. 136.

への輸出資金を決済しうるから、もはや資金を凍結させる懸念もなく輸出を行ふことが出来る。またハンガリー側もスイスからの輸入資金と輸出資金とを相殺させるから、資金流出の懸念なくスイスからの輸入を續けることが出来る。

併しながら茲に注意すべきは、この協定の成立によつて、兩國の貿易を均衡ならしめんとしたのではない。即ち爲替清算制は必ずしも交換貿易制と一致するものではない。寧ろ從來の不均衡なる貿易状態をそのままに承認して、ほゞその状態を維持せんことを企圖してゐる。前にも述べる如く、ハンガリーはスイスに對して著しき出超國であるが、この協定は之を調整せんとするものではなく、寧ろ協定成立後もこの状態の續くことを豫想してゐる。即ちハンガリーの出超はスイスの入超であるから、スイス中央銀行の中に設けられたる特別勘定に、それだけの決済尻が残らねばならぬ。この残高が四百萬スイスフラン以下なる場合には、その三分の二は從來の凍結せるスイス輸出債權の辨済に用ひ、三分の一はハンガリー中央銀行の自由處分に委する。また若し右の決済尻が四百萬スイスフランを超過する場合には、この自由處分の部分を四分の三に引上げることとしてゐる。¹⁴⁾たゞ併し、かりにこの協定の成立せざるために、スイスの輸出が杜絶したりとせば、更に甚だしきスイスの入超を示すかも知れず、それに比すれば從來の程度の不均衡を維持することは、相對的には均衡状態により近いものではある。けれども積極的に均衡状態の成立を意圖するものでないことは、右によつても明らかであらう。

14) 十龜盛次氏、前掲論文、P. 15.

爲替清算協定の成立するに至る事情は、その後に成立した他の多くの場合においても、ほとんどの場合と大同小異であると言へる。われ／＼は尙一つ、最近に経験した英獨間の爲替清算協定について、その成立の事情を検討して見よう。ハンガリーと同じくドイツもまた、一九三一年七月の金融恐慌以來、主として通貨制度の維持のために極端なる爲替管理を實行し、中央銀行における爲替の賣却を制限することによつて、輸入制限を行はんとした。即ち一九三三年上半期以來は爲替賣却高を一九三一年の輸入を基準としてその五〇％に制限したが、併しこの方法によつても輸入を制限することは現實には不可能であつた。何故かと言ふに、爲替の制限は單なる支拂の制限に過ぎず、何ら對外註文を制限するものでもなく、また封鎖マルクの減價をさへ忍べば、ドイツへの輸出は制限なく可能であつたからである。¹⁷⁾

然るに一九三四年に入つてドイツの貿易状態は俄然急變することゝなつた。これまで永續的に出超をつづけて來た貿易は、こゝで急激に入超に轉じたのである。¹⁸⁾ その主たる理由は、ヒットラー内閣の信用膨脹策にある。ヒットラー内閣の成立以來、失業對策として公共事業に支出された政府資金は、五〇億乃至六〇億マルクと言はれるが、この膨脹政策は一方において、國內景氣を煽つて消費財の需要を増し、そこから輸入を増加せしむることゝなり、他方においては國內物價を騰貴せしめて、輸出を困難ならしむることゝなつた。¹⁹⁾ 加ふるに政治的・經濟的理由より來るドイツ商品への壓迫も加はり、それらのため一九三四年上半期の貿易は、未曾有の惡化を示し、前

17) The Economist, Sept. 15. 1934. p. 485.

18) The Economist, ibid., p. 484. 美濃部亮吉氏、前掲文、p. 35.
油本豐吉氏、爲替證明制度論 (『經濟往來』) 第十卷第一號、p. 12-14.)

19) The Economist, ibid., p. 484.

年上半期の輸入二〇億・輸出二三億マルクに對し、今年はその地位顛倒して輸入二三億・輸出二〇億マルクといふ入超を示した。從來の如き輸出超過を續けてさへ、對外支拂を極度に制限してゐたドイツにとつて、かくの如き貿易状態は堪え得べきでない。

之に對して採られた第一の方法は、從來の爲替賣却制限を更に強化して、前年以來の五〇%を漸次に縮少し、三月には四五%、四月には三五%、五月には二五%、六月一〇%、八月は五%にまで縮少した。²⁰⁾ たゞ併し之は前にも述ぶるが如く、現實の輸入が一九三一年の五%に縮少されたのではない。爲替による對外支拂がこの程度に縮少されたに過ぎず、現實の輸入は前述の如く却つて著しく増加したのである。従つて輸入の大部分は決濟されずに残ることとなり、外國の輸出商人より見れば、輸出資金の大部分はドイツ國內に凍結せしむることを意味する。

第二の方法は、かくの如き爲替制限による間接方法では輸入を沮止しがたきを見て、直接に輸入管理を行はんとするものである。即ち一九三四年三月『工業用原料及半製品の取引に關する法律』を設けて、棉花・羊毛・ゴムその他の原料品十一部門につき、それらに輸入監督署をおきて嚴格に之を管理せしめ、更に九月に至りこの制度を擴大して、原料品十部門、農產品四部門を追加し結局二十五部門に亘つて直接に統制を加ふることとなつた。²¹⁾ 而して完成品の輸入については既に早くより管理統制の下にあつたから、之によつて殆んど總ての輸入品に及んだわけである。この對策は輸入を制限して少くとも輸出の程度に引下げんとするものではあるが、併しかくの如

20) The Statist, Aug. 18, 1934, p. 221.

三菱經濟研究所, 世界經濟の現勢, p. 274.

21) The Economist, Sep. 15, 1934, p. 485.

三菱經濟研究所, 前掲書, p. 275-276.

き必要なる原料品の輸入までも制限するときは、却つて輸出を減退せしめてます／＼入超傾向を強めるでないか問題であらう。

そこで第三の最後の方法として、ドイツは遂に六月に至りかのトランスファ・モラトリウムを宣言するに至つた。即ち一切の對外支拂はドウス債・ヤング債をも含めて、一時之を停止してラヒスバンクの中にある國際決済銀行にマルクをもつて拂込むこととした。この處置は債權國たる各國の不滿を買ふこと甚だしく、ことにイギリスは強も強硬なる態度を示して、直ちに債務清算局および輸入制限報復法を設けて強制的にその輸入資金をもつてドイツ債權を清算せんとした。²²⁾その結果七月に入つて兩國間のトランスファに關する協定が成立し、この協定に基いて八月に至り問題の爲替清算協定即ち詳しくは『大英帝國及北部愛蘭政府と獨逸政府との間における貿易上の支拂に關する爲替協定』²³⁾が成立するに至つた。

英獨間の爲替清算協定は、他の多くの同種協定と異り、たゞ一方的にドイツ側における輸入資金の中央銀行への集中を認めたるに止まり、イギリス側には之を認めず、且つドイツ側においても必ずしも強制的に之をなさしむるものでない點において、著しい特色を有するものではあるが、併しその成立の事情は、最初のハンガリー——スイス間の協定と共通する點が甚だ多い。即ちドイツはたゞハンガリーの地位にあつて、極端なる爲替制限を行ひ、封鎖貨幣制を布き、對外支拂を制限してゐるが、併し今若し何らかの方法によつて對外支拂を要せざるならば、ことにイギリ

22) 三菱經濟研究所、前掲書 p. 271-272. 十龜氏、前掲論文 p. 17.

23) Bankers' Magazine, Sep. 1934. p. 336-340.

24) ibid. p. 336-337. The Economist, Aug. 11, 1934, p. 263. Sep. 15, 1934, p. 485. 十龜氏、前掲論文 p. 19

スの如き出超國に對しては、その輸入を續けたい希望を有する。またイギリスは恰かもスイスと同じ地位にあつて、ドイツに對しては入超國であり、且つその輸出資金はドイツの爲替管理のために全く凍結してゐるから、何等かの方法によつて之を回収すると共に、新たに資金決済の方法さへあれば、入超先のドイツへは出来るだけの輸出を續けねばならぬ。²⁵⁾これらの諸點における英獨兩國の要求は、殆かもかのハンガリーとスイスの場合におけると、殆んど同様であることが判る。

四、爲替清算制の決済機能

爲替清算制の經濟的機能は、すでに述べ來れる所によりて明らかなる如く、主として二つの方面にある。一は國際貸借決済の機能であり、二は國際貿易統制の機能である。この制度の機構そのものは、さきに述ぶるが如く、貸借決済の機構ではあるが、併しその貸借は、貿易上の貸借を主とするものであつて、たゞその餘剩をもつて貿易外の貸借をも決済しうるに過ぎない。即ち貸借決済の機能を促進することによつて、貿易促進の機能を發揮する。逆に言へば、貿易を統制的に促進せんがために、その貸借を決済する機能を十分ならしめんとするものである。従つて右の二つの機能は、互に密接な關聯の下にあることは言ふまでもない。

第一の機能において、爲替清算制の有する意義は、同じ機能を果す所の從來の制度、即ち爲替

方法に取つて代るものである。爲替による決濟方法は、金輸出の禁止された今日における唯一の方法であつたが、極端なる爲替管理のために、決濟の機能を十分に發揮することが出来なくなると、之に代つて同じ機能を發揮する他の制度が生れねばならぬ。爲替清算制これである。

然らば何故に、從來の爲替方法では行詰つて來た決濟機能が、新たな爲替清算制によつて打開されるか、兩者の本質的な相違はこの點に存するのであつて、要するに資金移動トランスファーの有無にある。爲替の方法は、なるほど金や鑄貨や通貨を現送するものではないが、併し貨幣資本即ち資金は、之によつて國際間に移動する。而して金融恐慌の結果として通貨制度と貨幣價值の維持に専念する國家としては、この資金の海外移動を出来るだけ抑へねばならぬ必要から、爲替管理を強行するに至り、こゝに爲替の決濟機能を沮害するに至つたのであるから、之に代るべき決濟方法は、必然の要求として、資金を移動せしめずして、而かも決濟機能を有するものでなければならぬ。爲替清算制は恰かもこの要求に合致するものであつて、それは全く何等の形における資金をも移動せしめずして、而かも貸借決濟の機能を發揮しうるものである。

この點を明確に把握せざるために、前に述べたる種々の見解が對立する。即ち第一の爲替制限説と第二の爲替緩和説とは、何れもこの制度と爲替との關係を意識しながら、之を明確にせざるがために生ずる見解である。この制度が爲替制限の結果として發生したことは、述べ來れる通りであるが、併し之は爲替制限を更に強化せんとするものでもなく、また反對に之を緩和せんとす

るものでもない。決濟機能を失ふに至つた爲替方法に取つて代つて、同じ機能を異なる方法によつて果さんとするものであるから、爲替そのものを制限するものでもなく、また緩和するものでもないことは言ふまでもない。

決濟機能より見たる爲替清算制は、理論的にはあらゆる原因より生ずる國際貸借を決濟しうるものである。商品移動より生ずる貿易上の收支は固より、資本および勞働の移動より生ずる貿易外の收支は勿論、賠償金および戰債金の如きに至るまで、この方法によつて決濟しうることは言ふまでもない。併しながら現實にこの制度が協定せらるゝ場合について見るに、殆んど總ての場合において、そこに認めらるゝ決濟機能は、貿易上の決濟に限られてゐる。^(註)たゞその決濟尻の生ずる場合には、之をもつて他の決濟をもなし得ることゝなつてゐるが、併しこの場合にも過去の貿易決濟即ち凍結せる輸出資金の決濟を、まづ第一に果すべきことゝし、それ以上の剩餘ある場合において、始めて貿易以外の決濟にも流用しうることゝしてゐるのが多い。このことはこの制度の決濟機能に關聯して、注意すべき二つの事柄を暗示してゐる。

(註) 一の例外として、ドイツ・スイス間の協定では、商品の外に『旅行者費用および投資勘定』をも包含することゝしてゐる。

第一は、この制度が直接には決濟機能のために存在しながら、寧ろその存在理由が貿易機能の上にあることを示してゐる。之については次節に詳論する。第二は、この制度の決濟機能に、一定の限界性の存することはである。この限界性は、たゞに現實の上において前述の如く貿易決濟

にのみ限定されるといふに止まらず、更に理論上においても、國際貸借または收支の均衡せざる以上は常に決済尻を残さねばならぬといふ點にも存する。²⁶⁾ 後に述べるが如く、この制度が一般的な國際制度にまで發展して、例へば今日の國際決済銀行の如きを中央決済機關とする場合には、この意味の限界性は大いに緩和せられて、それだけこの制度の決済機能を擴張することとなる。けれどもこの場合でも、中央決済機關の帳簿上の貸借は常に残存するから、それが甚だしく一方に偏する場合には、決済機能は行はれない。即ち全く完全なる決済機能は、この場合でも期待され得ない。況んや今日の程度に止まる不完全なる清算制では、この點において決済機能の限界を認めざるを得ない。^(註)

(註) 一九三四年八月に成立した英獨間の爲替清算制ではライヒスバンクの特別勘定の決済尻が、五百萬マルクを超過するときは何時にてもそこへの拂込を停止しうることとなつてゐた。然るに八月二十日實施を見るや、二旬を出でずして、九月十二日にはすでにこの最高限定に達し、清算協定は事實上行はれざることとなり、十一月一日新協定の成立と共に、この爲替清算協定は廢止された。^{※)}

五、爲替清算制の貿易機能

爲替清算制の直接の機能は、國際貸借を決済するものではあるが、併し前にも述べるが如く、その決済は多くの場合において、總ての貸借に適用されず、たゞ貿易上の決済に利用されるに過ぎない。このことは即ちこの制度の現實の存在理由が、決済上の機能よりも寧ろ貿易上の機能に

26) World Trade, March, 1934, p. 4.

※) The Statist Nov. 10, 1934, p. 604-605. The Economist, Sep. 15, 1934, p. 485, p. 24.

十龜盛次氏、英獨爲替協定に就て(『自由通商』)第八卷第一號 昭和十年一月)

あることを證するものである。^(註)

(註) 稀なる例外としては、一定商品の貿易上の決済をも、この協定から除外することがある。例へば英・匈協定では、英國は後者からの小麥輸入を除外して、之を健全通貨をもつて支拂ふこととしてゐる。²⁷⁾

この點に關して、Finzig 氏が爲替清算制の利益 (advantages) として、列擧してゐる諸項目が、殆んど總て貿易上の利益であることは興味がある。即ち次の諸點である。²⁸⁾

- (1) 財政的に弱い債務國をして、同様の國または財政的に強い債權國からの輸入を可能ならしめる。
- (2) 財政的に弱い國に對して、同様の國または財政的に強い國からの輸出を可能ならしめ、またその資金取寄を可能ならしめる。
- (3) 爲替制限・輸入割當・禁止的關稅および輸入禁止の如き、貿易上の障害を除去する傾向がある。
- (4) 二國間の輸出入貿易を、向上的に積極的に均衡せしむることによつて、貿易を増進する傾向がある。
- (5) 輸出國をして、輸出の代償として何物かを輸入せんとせしむることにより、ダンピングを緩和する傾向がある。
- (6) 爲替下落國をして、從來と同量の輸入をなすためには、より多くを輸出せねばならぬことを知らしめ、爲替ダンピングを緩和する。
- (7) 債權國をして、債權國への商品輸出の形において、その舊債の支拂を容易ならしめる。
- (8) 各國政府間に、國際貿易關係におけるより協調的な精神を作り出す。

この説は爲替清算制の貿易上の機能を、餘りに理想的に強調せる嫌がないでもないが、何れにせよ、この制度と貿易との關係が如何に重要であるかは、之によつて十分に知ることが出来る。然らばこの貿易上の機能とは、如何なる意味をもつものであらうか。

第一は貿易促進の機能である。即ち述べ來れる如く、爲替管理國における極端なる對外支拂の

27) Reisch, a. a. O. S. 343. Einzig, *ibid.*, p. 157. 名和氏. 前掲論文 p. II.
28) Einzig, *ibid.*, p. 140-141.

制限のために、相手國の輸出が著しく障害を蒙る場合に、之を緩和する手段として、對外支拂をなすことなく貿易を行ひうる新制度によつて、この貿易障害を除去せんとするものである。この點から、この制度による貿易促進は、種々の特色を有することゝする。

その一は消極的促進といふ點にある。即ち從來の謂はゆる貿易促進策の如く、積極的に貿易の促進を計るといふよりは、寧ろ消極的に、貿易上の障害を除去することによつて、之を促進せんとするものである。^(註)

(註) それ故にその國の貿易統制が、金融恐慌のために對外支拂を制限せんとして行はるゝか、または産業恐慌のために國內市場を擁護せんとして行はるゝかにより、清算制の効果の上に著しき相違を生ずる。前の場合には對外支拂さへ免れるならば輸入そのものは却つて望む所であるが、後の場合には對外支拂の如何に拘らず輸入を制限せねばならぬからである。²⁹⁾

その二は、之によつて緩和または除去せらるゝ貿易上の障害は、主として貿易決濟上の障害である。一般的に言へば、その他の障害たとへば輸入割當制や關稅障壁の如きは、之によつて直接には緩和せらるゝものではない。^(註) 従つてこの制度による貿易促進には、一定の限界があり、こゝに自由貿易の曙光を認めんとするが如きは尙早である。³⁰⁾

(註) たとしチェコスロバキア、ルーマニア間の爲替清算協定の結果、前者の貿易が極めて有利に轉換したため、同國政府は或る種の商品につきルーマニアへの輸入割當を増し、且つその關稅率を引下げんとしたことはある。³¹⁾

その三は、之による貿易促進が相互的な點にある。即ち一方の國には輸入促進であり、他方の國には輸出促進である。金融恐慌または産業恐慌の時代において、輸入促進を計るが如きは矛

29) 拙稿、貿易統制の制限性と促進性(本誌、前月號 p. 266---267)
30) World Trade, March, 1934, p. 3.
31) Einzig, ibid., p. 142. 宮川氏前掲書 p. 60.

盾の如くであるが、併し爲替管理の極端に行はるゝ場合には、國內生産にとり必要なる原料品の輸入までも不可能となるから、之を緩和することは、輸出増進の手段としても必要となつて来る。

第二の貿易上の機能として、問題となるのは、この制度が單に貿易を促進するに止まらず、貿易の不均衡を調整して之を均衡せしむる機能を有するか、即ち交換貿易的な意義を有するか、否かにある。さきにも述ぶるが如く、この制度は直接には、バーターを意味するものではない。個別商品の價格的交換といふ狹義の意味においては勿論、貿易價額を均衡せしむるといふ廣義の意味においても、直接にはバーター性を有しない。何故かといふに、この協定の成立する多くの場合は、すでに述ぶるが如く、寧ろ貿易の不均衡なる二國の間に、而かもその不均衡なる貿易状態を、大體において從來のまゝに維持せんとするものである。例へば前述の如く、ハンガリー・スイス間および英・獨間の協定もそれであり、またチエコ・ルーマニア間の協定でも、兩者の輸出比率を一〇〇對一二五として、初めから不均衡を認めてゐる。³²⁾一九三四年八月一日から實施された獨・佛間の協定では、大體その年の上半期の不均衡なる貿易状態、即ちドイツの對佛輸出一、二二七百萬フランに對する輸入九一八百萬フラン、出超三億フランを基準として、之を著しく變更せざる趣旨の下に、フランス輸入額の八四・二五%をもつてドイツの輸入を決済し、殘餘の一五・七五%をもつて、他のドイツ債務を決済しまたは自由に處分しうることをしてゐる。³⁴⁾是等によつても明らかなる如く、爲替清算制は寧ろ不均衡なる貿易状態をそのまゝに認むるものであり、従つて直接にはバーター制を意味するものではない。

32) Bankers' Magazine, Sep. 1934. p. 339-263.

33) Einzig, *ibid.*, p. 142.

34) 十龜氏, 前掲論文, p. 16.

The Economist, Aug. 11, 1934, p.

併しながら前にも述ぶるが如く、相對的または消極的の意味においては、即ち從來よりも更に甚だしき不均衡に陥ることを防止するといふ意味においては、バーターの性質を全く否定することも出来ない。何故かと言ふに、爲替清算制の成立する多くの場合は、出超國の爲替管理のために、その輸入が困難となり、従つて入超國たる相手國からの輸出が困難となり、兩者の間に存する從來の不均衡が、ますます不均衡の度を加へんとする傾向ある場合に、それを少くとも從來の程度に止めんとするからである。

論者の中にはまた、爲替清算制が、出超國の輸出には抑制的に作用し、入超國の輸出には促進的に作用するの故をもつて、そのバーターの性質を強調せんとするものもある。³⁵⁾なるほどこの制度では、輸入代金をもつて輸出を決済するのであるから、出超國ではその國の中央銀行に十分な輸入代金が集積されるまでは、輸出代金の支拂は延期されねばならぬに反し、入超國では常に豊富な輸入代金が中央銀行に集積されて、輸出代金は遅滞なく拂出されるからである。それ故に理論的にはこの傾向を否定し難いけれども、併し現實には例へば獨・匈間の協定の如く、最初はドイツの輸出代金の五割までは前渡しをなしうることにし、後には兩國とも輸出と同時に支拂をなし得ることとしたるが如く、兩國ともに輸出促進をなし得るの途も開かれる。³⁶⁾たゞその主要なる直接の機能が、資金移動の制限より来る貿易上の障害を除去する點にあることは疑ひ得ない。

要するに爲替清算制もまた、之を貿易機能の上より見る時は、貿易統制の一つの型といふことが出来る。なるほど貿易障害を除去する點では、却つて統制貿易とは反對に、自由貿易の傾向に

35) Reisch, a. a. O. S. 343. 名和統一氏, 前掲論文 p. 11.
36) Einzig, ibid., p. 152. 宮川氏, 前掲書 p. 74. 十龜氏, 爲替交換制度と英獨新協定, p. 16.

ある様にも思はれ、また學者の中には之を認めんとするものも少なくないけれども、³⁷⁾事實は反對に、却つて貿易統制への方向にあるものと考へられる。第一に、元來この制度は二國間の意思的契約の結果として成立するものである。この意味ではバーター貿易・互惠貿易・特惠貿易等々と同じく、自由貿易とは寧ろ反對の方向にある。第二に、この制度による輸出の促進または輸入の促進は、決して自由放任の結果ではなく、却つて意思統制の結果である。爲替制限による貿易障害を除去する代りに、他の方法による貿易統制を代置したるに過ぎない。第三に、この制度の行はるゝためには、爲替の強制的集中を前提とし、それより更に一步を進めねばならぬものであるが、爲替專賣制の如きは、統制經濟の高度に進める場合に始めて可能であり、自由貿易とは兩立しうるものではない。最近の英獨協定が失敗に歸した根本原因が、イギリス側の統制の未熟にあつた點を思へば、この制度が自由貿易への方向にないことは明らかであらう。

六、爲替清算制の發展性

爲替清算制の成立しうる典型の場合には、さきに述べる所の成立事情より容易に考へらるゝ如く、およそ次の如き諸條件の下においてある。

第一に、一方の國において極端なる爲替管理の行はるゝ結果、相手國の貿易は、輸出資金を氷結せしむるか、然らずば輸出貿易を甚だしく沮害せらるゝ状態にあること。

第二に、兩國の貿易常態は寧ろ不均衡にあつて、爲替管理國の出超、相手國の入超を示し、從

37) Reisch, a. a. O. S. 349.

Einzig, ibid., p. 149.

つて爲替管理による相手國の貿易沮害は、ますくその入超傾向を加重すべきこと。

第三に、兩國の貸借關係は、爲替管理國が債務者、相手國が債權者的地位にあつて、貿易上の不均衡が多少とも之を相殺しうる關係にあること。

第四に、兩國の希望または要求を見るに、爲替管理國では、對外支拂さへ免れうるならば、出超先たる相手國からの輸入は成るべく之を續けんとし、相手國では、資金凍結さへ免れうるならば、入超先への輸出は出来るだけ之を増加したきことこれである。

いま最初のハンガリー——スイス間の協定（一九三一年十一月十四日）以後、今日までに成立せる多數の協定について見るに、多くは右の如き諸條件の下にある場合に成立せるものゝ様である。先づスイスは全體においてハンガリーと同じ地位にある債務國たる爲替管理國と相次いで協定を結んだ。即ちその年内にオーストリア、一九三二年にはユーゴスラヴィア、ブルガリア、一九三三年にはルーマニア、ギリシャ、トルコ、一九三四年には新たにまたチリー、アルゼンチンと協定した。³⁸⁾ 次ぎに爲替管理國たるハンガリーも、フランス、ドイツ、イタリー、ベルギー、ルクセンブルグ、聯合國、オーストリア、チェコスロヴァキア、ルーマニア、ブルガリア、トルコの九ヶ國とそれゝに協定を結び、また是等のダニューブ諸國相互の間にも、多數の協定が成立した。

ドイツを中心とする爲替清算協定の發展は、前に述べた協定成立の諸條件から見て、極めて興味あるものである。即ち一九三二年から一九三四年の上半期に至る第一期の諸協定は、例へばブルガリア、ルーマニア、ギリシャ、トルコ、ユーゴスラヴィア、ハンガリー、オーストリア、チ

38) Einzig, *ibid.*, p. 137.

リ等を相手國とするものであり、是等の多くはドイツにとつて入超國であり、債務國であり、且つ爲替管理國であつて、ドイツがその輸出資金を回収し、かつ輸出を續けうるために、言はゞ最初の協定におけるスイスの地位にあつて協定したものである。然るに一九三四年七月以後の第二期における諸協定は、之とは全く反對の地位に立つて、出超國に對し、債務國として、爲替管理國の地位において締結したものである。例へばスイス、フランス、スエーデン、イギリス、オランダ、ベルギーとの間の各協定は之に屬する。

かくの如くしてヨーロッパを中心とする爲替清算協定は、一九三四年の中頃までに既にその數六〇以上に達すると言はれ、³⁹⁾その後も次第に増加の勢にあるが、是等の諸協定を最初に述べたる成立條件に關聯して分類すれば

第一類、ハンガリーと類似の地位にある中部および東部ヨーロッパの爲替管理・貿易入超・國際債務の諸國と、スイスと類似の地位にある西部ヨーロッパの資金固結・貿易出超・國際債權の諸國との間に成立せる協定。

第二類、右と同じ關係にある債權國としてのヨーロッパ諸國と、債務國としてのラテン・アメリカ諸國との間に成立せる協定。

第三類、中部および東部ヨーロッパの爲替管理國相互の間に成立せる協定これである。⁴⁰⁾

最後に、爲替清算制の發展の將來は如何、同種の協定は是等の地方より漸次に地域的に擴大して遂には全世界にわたる一般的制度となりうるか、或はまた更に質的に發展して、二國協定より三

39) Einzig, *ibid.*, p. 137.

40) Einzig, *ibid.*, p. 137.

國協定に進み、更に多國協定にまで進んで、一般的な國際的共通の統一制度となりうるか、論者のうちにはこの點につき、大なる希望と期待をかけるものも少なくない⁴¹⁾。なるほど三國清算制の事例としては、チェコスロバキアとギリシアとドイツの間に行はれたこともあり⁴²⁾、また多國清算制についても、一九三三年十一月バルカン諸國が聯合して、『中央爲替清算局』を設けんとしたこともある。之を更に擴大した制度としては、『國際決済銀行』を中央清算機關として活用しうるの途も考へられる⁴³⁾。今もし爲替清算制がかくの如き程度にまで發展するならば、國際經濟に對する貢獻には著大のものあるべく、かのタルヂュ氏のダニューブ・ブロック案⁴⁴⁾またはブリアン氏のヨーロッパ合衆國案の具體化とも見られ、確かに將來の發展方向を指示する一つの理想案と言へる⁴⁵⁾。

併しながら之を現實の具體的問題として考ふる時は、前に述べるが如きこの協定の成立に至る現實の事情より見て、かくの如き成立事情の國際的一般化を豫想せざる以上は、その實現は困難であらう。即ち極端なる爲替管理の強行による相手國の貿易および決済の沮害が、一般化するか否かに依存し、具體的には爲替賣買の中央銀行への強制的統一が、一般的に實現するか否かに依存すると思はれる。現に最近に成立した英獨間の協定が、有効な機能を發揮し得ずして、間もなく廢止されたのは、主としてこの點に關する條件を具備してゐないからであらう⁴⁶⁾。今もし爲替管理が極端に進まず、若しくは或程度に緩和されて、少くとも從來の自由市場を存在せしむる限りは、爲替清算制は著しく發展するものとは思はれない。現にこの制度のために貿易狀態をますます惡化せしむるに至つたドイツでは、『新計畫』の下に新たな爲替證明制を案出して實施しつゝ

41) Reisch, a. a. O. S. 349.

Einzig, *ibid.*, p. 160-162.

42) Einzig, *ibid.*, p. 160.

宮川氏著、前掲書、p. 85。十龜氏、前掲文、p. 20.

43) Einzig, *ibid.*, p. 161.

十龜氏、前掲文、p. 20.

44) Einzig, *ibid.*, p. 149.

45) 拙著、國際經濟の理論と問題、p. 281.

46) The Statist, Nov. 10, 1934, p. 604.

十龜氏、英獨爲替協定に就て（『自由通商』第八卷第一號）

ある。⁴⁷⁾

従つてまた吾國の現實の問題としては、大なる發展性をもつか問題であらう。何となれば第一に、吾國の外國爲替管理法は、主として資本の逃避および爲替の投機を取締るに止まり、爲替自由市場は從來のまゝに存續せしむるのみならず、近き將來において之を強制的に中央銀行に統一するが如きは、急激なる事變の突發せざる限り實現するものとは考へられないから、吾國の側の事情のために、爲替清算制の盛行するが如きは想像され難い。第二に、實現の可能性は寧ろ諸外國の側における爲替管理が、吾國の輸出または爲替を沮害するに至る場合にある。現にラテン・アメリカ諸國における爲替制限が、吾國の爲替取寄せに支障を來たして、現實の問題を惹きおこしたことがあつた。今後もしも斯かゝる事情が頻發するに至れば、或はそれらの諸國との間に協定の成立するに至る可能性はある。けれども一般的にこの協定が吾國を中心として盛行するに至るであらうとは、今のところでは考へられない。

要するに爲替清算制は、國際決済の方法としては、最も合理的のものであり、確かに一の理想案ではある。けれどもこれが實現の條件としては、爲替自由市場の解消または爲替賣買の中央銀行への統一が前提であり、この種の爲替專賣制は、統制經濟の著しく進んだ段階においてのみ可能であるから、爲替清算制もまた、急速に一般的な國際決済制度として、全般的に今日の爲替制度に取つて代るものとは考へられない。たゞ將來の發展の方向を暗示するものとして興味あり、またその意味において吾々の研究に値するものと思はれる。(九、二、三〇)